

第 70 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 構造分科会 議事録

1. 日 時:2011 年 11 月 8 日(火)13 時 30 分～16 時 00 分
2. 場 所:日本機械学会 第 2 会議室
3. 出席者:飯田(東電)、西野(配管技術研究協会)、西田(三菱重工)、堀(パナソニック日立)、一柳(中電)、小高(富士電機システムズ)、北村(関電)、谷川(川崎重工)
代理者:井關(島田(東芝)代理)、田村(堤田(日立)代理)
欠席者:齋藤(IHI)
オブザーバ:なし
事務局:海野(記)

4. 配布資料

- 70-1 . 第 69 回構造分科会議事録(案)
- 70-2 . 構造分科会委員名簿
- 70-3 . 第 57 回火力専門委員会議事録(案)
- 70-4 . 第 58 回規格委員会議事録(案)
- 70-5 . 発電用設備規格委員会書面投票結果
- 70-6 . 発電用設備規格委員会書面投票意見対応案
- 70-7-1 . 構造分科会標準審議フロー
- 70-7-2 . 発電用火力設備規格 詳細規定 第Ⅱ章 材料 許容応力表改訂作業の是正措置について

5. 議題

(1) 前回議事録確認

[資料 70-1]

前回議事録(案)について確認を行なった結果、意見等は特になく、議事録案は承認された。

(2) 分科会委員・役員の承認

[資料 70-2]

西田委員、堀委員の再任意向を受領していることが報告された。出席委員全員の賛成により、次回火力専門委員会に再任候補として推薦することが承認された。また、浜田委員の退任が報告された。主査及び幹事の互選が行われ、出席委員全員の賛成により主査候補として飯田委員、幹事候補として西田委員を次回火力専門委員会に推薦することが承認された。

(3) 報告事項

(3-1) 火力専門委員会・規格委員会他報告

[資料 70-3,4]

第 57 回火力専門委員会、第 58 回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・ 火力専門委員長任期満了に伴う選任手続きが承認されたこと。
- ・ 火力専門委員会における規格委員会書面投票意見対応案の審議において、次の意見があったこと。
 - ◇ 既承認・既発行の範囲について反対意見が何度も出ていることについて、問題であると規格委員会で発言して欲しい。

(規格委員会での審議の結果、既承認・既発行の部分であっても規格全体を改訂案として出している以上、除外することは難しいとの意見があり、既承認・既発行の範囲であっても投票対象外との結論にはならなかった。その後に行われた幹事会において引き続き議論し、既承認・既発行の範囲であって、技術的に重大な問題がないものが投票の可決に必要な要件であるか否かは、2次投票において委員会として判断するという見解が示された。)

- ・ 規格委員会における発電用火力設備規格に関する書面投票関連の審議結果について報告した。

- ✧ 事例規格(高クロム鋼関連)は、2次投票において意見付き反対票があったが可決に必要な要件を満たしており、可決された。反対意見に対する意見対応として修正案が説明され、編集上の修正であることが承認された。

- ✧ 基本規定は、再投票において意見付き反対票があったことから、意見対応を実施、意見対応案が説明された。意見付記委員からの確認結果で反対が取り下げられない場合には2次投票に進むことが承認された。(規格委員会後の確認結果において、反対が取り下げられなかったことから2次投票に進むこととなった。)

- ✧ 詳細規定構造分科会関連は、再投票において意見付き反対票があったことから意見対応を実施、規格委員会前に回答があった確認結果にさらに対応し、その結果反対意見が取り下げられない場合には2次投票に進むことが承認された。(さらなる対応の結果、反対意見が取り下げられなかったことから2次投票に進むこととなった。)

- ✧ 詳細規定材料分科会関連は、再投票において反対票が無く可決となっていたが、保留意見対応における引用JIS年版指定が、技術的変更を伴う修正であると判断され、火力専門委員会からの再投票を行うこととなった。(その後の再投票準備作業中に、JIS年版指定は2008年版で元々指定していたものを規格改訂作業中に誤って削除したことが判明し、規格策定プロセスの是正措置を火力専門委員会で検討することとした。)

(3-2) 規格委員会書面投票(2次投票)結果報告

[資料 70-5]

基本規定案及び詳細規定案各分科会関連の火力専門委員会書面投票2次投票結果について報告した。

<投票対象>

- ・ No.177 基本規定案
- ・ No.178 詳細規定案構造分科会関連
- ・ No.179 詳細規定案溶接分科会関連

<各書面投票共通>

投票期間:9月30日(金)～10月31日(月)

投票結果:可決(委員数5分の4以上の投票数により投票成立、反対票はあったが、投票数3分の2以上の賛成票数があり、2次投票のため可決)

<投票内訳>

- No.177 基本規定案

委員数 31 名

賛成 27 票

反対 1 票

保留 0 票

不投票 3 名

投票意見:反対意見有り(分科会資料に添付)

- No.178 詳細規定案構造分科会関連

委員数 31 名

賛成 27 票

反対 1 票

保留 0 票

不投票 3 名

投票意見:反対・参考意見有り(分科会資料に添付)

- No.179 詳細規定案溶接分科会関連

委員数 31 名

賛成 27 票

反対 1 票

保留 0 票

不投票 3 名

投票意見:反対・保留・参考意見有り(分科会資料に添付)

(4) 審議事項

(4-1) 規格委員会書面投票意見対応について

[資料 70-6]

構造分科会に関連する基本規定案(書面投票 No.177)及び詳細規定案(構造分科会関連)(書面投票 No.178)に関し、審議した。以下に特記事項を記す。

(1) 意見対応案について

- 基本規定吉田委員反対意見(a)

PG-80.1 の表現の修正を検討し、意見対応案を次のように見直す。「PG-80 およびその下に含む PG-80.1 は、胴の許容真円度を規定するとともに、胴が円筒形であることを示しております。

しかしながら、PG-80.1 の表現に分かりづらい点があることから、次のように表現を見直します。

“...”」

- 詳細規定吉田委員反対意見(c)

溶接分科会での審議結果をいただいた後、構造分科会各委員へ対応案をメールで送付し、メール審議を行う。

- 詳細規定浜田委員参考意見(e)

修正案の“応力範囲”の前に“変位による”を追記する。

- 用語統一ほか全体チェック

- 通し番号 29 「公称厚さ」→「呼び厚さ」とする。

- ・通し番号 31 Table TM は第2章で取り入れ済みであるので、元の表現に戻す。
(「弾性係数」→「縦弾性係数」の修正のみ)
なお、Table TM に関する部分は他にもあるので、全て拾い上げて修正する。
- ・通し番号 105 「公称厚さ」→原文確認し、nominal thickness であれば「呼び厚さ」に統一する。
- ・通し番号 169 「支配厚さ」→適切な表現を検討する。
- ・通し番号 170 「考慮すべき」→「検討中の」に変更する。
- ・通し番号 264 「公称厚さ」→原文確認し、nominal thickness であれば「呼び厚さ」に統一する。
- ・通し番号 282 規定内容を再確認し、特に問題なければ JIS におけるねじの呼びに変更する。
- ・通し番号 286 NPS(インチ系)の呼び径で呼びと実寸法が等しくなる大口径の場合の DN(mm 系)呼び径表記方法について確認し、DN 表記とする。
- ・これらの規格原稿、レビュー票修正作業は、規格委員会終了後に行う。

(4-2) 発電用火力設備規格改訂作業ルールの見直しについて [70-7-1,2]

詳細規定材料分科会関連の書面投票において二度の再投票となったことを受け、規格策定プロセスの是正処置として、標準審議フロー、書面投票意見対応フロー、審議履歴表の各案が提案され、審議した。出席委員全員の賛成により、以下の修正を反映した後、各案を火力専門委員会に付議することが承認された。

・標準審議フロー(案)

規格原稿修正時にはレビュー表も修正が必要なので、そのことが分かるように追記する等の修正を行う。

6. 次回開催予定

日 時:2012 年 2 月 14 日(火)13 時 30 分～17 時 00 分

場 所:日本機械学会 第3・4会議室

以 上